[認知症対応型共同生活介護用]

作成日成 20 年 2月 25

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470104849		
法人名	株式会社 ニックス		
事業所名	グループホームかぐや姫		
所在地 (電話番号)	732-0046 広島市東区尾長東2丁目6－6 (電 話) 082-568-6166		
評価機関名	広島県シルバーサービス振興会		
所在地	734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月17日

【情報提供票より】(20 年 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 9.1 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,600 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150000 円)	有りの場合 償却の有無	有(3年)
食材料費	朝食 350 円	昼食	450 円
	夕食 620 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 1500 円		

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢 平均	86.6 歳	最低	70 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津谷内科呼吸器科クリニック. キムラクリニック. 西本歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家風の玄関には季節の花々が植えられ、訪れる人を優しく迎えてくれる「グループホームかぐや姫」は、街中の住宅街にあるため交通量も多いが、職員の見守りと管理の行き届きにより、利用者は安心して穏やかに日々を過ごされている。かつては、社会で活躍され家族を守ってきた先輩・親としての品格を認め、そして尊敬と感謝の念をもって介護に当たる施設の経営理念が職員の優しい対応や明るい表情から伺える。また、その人らしさを大切にし、寄り添い、地域の中で支えていこうとする介護の原点がここにも存在している。職員はこの職場でお年寄りと共に自分達も成長しているし、トップレベルのサービスを提供しているのだと誇らしそうに語る姿が頼もしく感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題は特にないが、管理者及び職員は日常的に、また折に触れ経営理念に立ち返り、もし、自分の親だったらどうするか、一人ひとりのその人らしい生活にはどうすれば実現出来るのかを念頭に置き、常に最良のケアに向けての改善を目指している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び過去の外部評価も含めて絶えずスタート時点に立ち返り、より良い形で改善されているかを職員全員で確認・検討し合い、更なる向上に向けての話し合いや取り組みがされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	管理者・職員が地域密着型サービスの特徴を十分に把握し、運営推進会議が地域住民と利用者の家族全員参加のもと効果的に地域に根ざした形で開催されている。そのためか、ホームと地域との良い関係が構築され、その地域全体のまとまりに一役買うほどの存在になっていることが伺える。今後は地域からの出席者を多岐に求めて、運営推進委員会を更に充実させ、地域社会に貢献して貰いたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	当ホームでは、サービスの質の確保・向上のために、日常的に家族の意見や苦情を聞きながら、気軽に話し合える雰囲気作りに取り組み、しっかりと意見交換しながら運営されている。入所時には、ホームには苦情窓口があることを知らせ、また、外部の苦情受付機関もあることも説明している。とかく都合の良いことばかりが聞こえてくることが多い今では、クレームこそが改善のスタートという基本姿勢で今後も取り組んで貰いたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	当ホームは住宅地の中に位置し、平坦な道を10分も歩くと保育所も隣接し、また公園もある。この公園はホームの利用者にとっては体力づくりに、また気分転換のための散歩コースであり、ここでは地域の人たちと挨拶を交わしたり、会話を楽しんだり、保育園児と接し交流する絶好の場となっている。ホームで毎月発行する便りには、近隣の人たちと共にくつろぐ笑顔や夏祭りの写真などが掲載されている。

2. 評価結果(詳細)

(　 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で確認し、利用者と家族が連携して取り組むことを念頭において作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については日常的な活動の中で振り返り、確認し合いながら常に理念の実現化に努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くには公園があり、散歩などを通して日常的にご近所として接しながら町内会の一員としての挨拶を交わしている。また、地域の保育園の園児たちや中学生、町内会、ボランティアグループとも交流を深めている。保育所の運動会・学園祭・地域の集会や盆踊りなどの行事には積極的に参加している。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を管理者と職員でしっかりと理解した上で、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果をサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、定期的に開催されている。開催については年間計画に基づいて実施しているため、地域の町内会・女性会・民生委員・地域包括支援センター等からの出席者も多く、地域からの協力をしっかり得ながら、サービスの向上に役立てている。また、そのためか地域の行事などには好意的に受け入れられている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域が主催する研修会に参加するなど関係作りを図っている。また、管理者が、社会福祉主事として広島市老人大学院の講師を務めている関係上、広島市東区主催の認知症サポーター養成講座には講師としてヘルパー養成に携わるなど、介護サービスの質の向上のため地域貢献に取り組んでいる。	○	ホームの管理者が取得している「認知症アドバイザー」や「社会福祉主事」の資格を活用して、市や地域包括センターと連携を図りながら、地域の中での認知症理解のための啓蒙･指導者養成活動に取り組んでいる姿勢は高く評価される。今後、認知症の人々を地域で包み込む社会環境作りの成果を期待したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりは、毎月発行される事業所便りで、また個々については毎月、書面(ホーム長日記)で健康状態や出来事、金銭出納状況を報告している。随時には、電話による意見交換をしたり、要望、苦情をきいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議には家族会の全員参加を基本として、家族の要望や苦情を外部に知らせる機会を設けている。その時の要望等の懸案事項はミーティングを通じて話し合いをし、またサービス内容の見直をするなど、柔軟且つ積極的に改善に向けて取り組むようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響はあまり無いが、人事異動に関しては、他部署への移動後も交流を持ち出来るだけ利用者のダメージを防ぐように取り組みをしている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、2ヶ月に一度の社内研修、また必要に応じての社外研修等は、その人の能力に応じた研修を受ける機会が確保されている。個々の職員の能力を評価･把握し、それに応じた研修で能力アップを図り、プロとして自信を持って働く意欲を育成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所や関連の事業所などと情報交換会や、施設相互の見学会は機会あるごとに実施してネットワークを作り、更なるサービス向上を目指している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は利用者と共に生活する環境へと徐々に馴染み、これらにより安心し、納得した生活が出来ていく過程を見極めながら時間をかけて対応している。時には家族の宿泊の機会も設けて、利用者の視点に立って自然の中で安定的な利用に移行するよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	四季折々のホームの行事には利用者の隠された能力や経験を掘り起こし、得意分野では特に力を発揮してもらい、一緒に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。秋には、園芸、干し柿作りや大根干しなど年長者ならではの能力を発揮してもらい、家族のような関係で互いに学び合いながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での声をかけや、会話の中ではどのようにして暮らしたいのか、何をしたいのかなどをよく観察しながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者が安心して安全に快適に暮らせるよう、本人や家族の要望をよく聞き、課題となる事項をスタッフ全員で話し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、毎月、利用者の状態の変化や状況、家族や本人の要望に応じて柔軟にその都度見直しが図られている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者･家族の状況に応じて、通院、送迎また特別な外出支援などにも柔軟に対応し、本人と家族共々を守る支援体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしては、利用者の心身の変化や異常について気軽に相談できるよう提携医院を確保している。そして、利用者の家族がかかりつけ医を希望する場合は、意向に沿って対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当施設はこのような医療体制や設備は持っていないが、家族の意向に沿ってはスタッフ、関係医、ケアマネジャー等と相談しながら終末期ケアに向けて最善の方策を立てている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを守り、人としての品格を常に大切にしていくことは、当施設の重要な課題として取り組み、特に個人情報の取り扱いについてはマニュアルなど規定を設け家族等の同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとってホームは自分の家庭であり、家庭にはそれぞれのペースがあるということを念頭において個別ケアに務め、柔軟な対応を心がけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや嗜好を大切にし、季節が感じられる献立や彩・食器等にも配慮して、職員と共に会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。調理・後片付けも利用者の力を活かしながら一緒に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの習慣や意向に沿って健康状態を見はかりながら柔軟に支援している。足浴なども含め、毎日入浴可能な体制を取っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	工作・リハビリ・お茶・生花・書道・歌声など各種クラブ活動を実施し、その人らしい楽しい時間を過ごすための支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近所の公園へ散歩したりして地域の人達との会話を楽しんでいる。途中、お花屋さんへ寄るなどして買い物もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が施錠することの弊害を理解しており、出て行く気配を見落とさない見守りや連係プレーで安全を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の防災マニュアルに基づき、年2回以上の避難訓練を実施している。防災のみならず、利用者の徘徊などの緊急時の非常事態連絡の訓練も繰り返し実施している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの1日の栄養量や水分量が十分摂取されているかを絶えずチェックしている。水分摂取量が低下している時は、プリンやゼリー、アイスクリームなどで常に補給できる体制をとっている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口には季節の花々やハーブを利用者と共に植えている。居間やテーブルの上などには、その花を摘んで飾ったり、四季折々に制作した貼り絵やのれん等の共同作品を飾り、共用の空間が季節感のある安らぎの場となるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家庭的な雰囲気を保持するために、ベッド･たんす･置物等の備品はなるべく使い慣れた馴染みの物を持ち込み、居心地良く過ごせるように配慮している。		

介護サービス自己評価基準

認　知　症　対　応　型
共同生活介護事業所

事業所名　　　　グループホーム　かぐや姫

評価年月日　平成20（2008）年　　02 月　　19 日

記入年月日　　平成20（2008）年　01 月　　30 日

※この基準に基づき，別紙の実施方法
　のとおり自己評価を行うこと。

記入者　　職　ホーム長　　氏名　池　田　　　竜　也

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	平成20年の施設課題を「品格ある質の高い生活」と定め、個々の利用者に合わせた暮らしのサービスを提供している。地域交流として、「地区民祭」として、5町内の協力の下「夏祭り」を実施。	○	品格とは、「その人らしさ」であると考え、その人らしい生活並びに、主体的な生活者として生活経営を考え続け、地域住民としての有り方を考え続ける。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設理念をスタッフルームに掲示し、常に理念の実現に努めている。また、職員個人面接週間にて、「相手本位の心」で接するよう再三にわたり指導し、2ヶ月に1回の研修を実施している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	3ヶ月に1度「かぐや姫だより」を発行し、地域や家人の協力と理解を得るよう願い出ている。また、地域の集会・保育所の運動会並びに学園祭などに積極的に参加している。		
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	2ヶ月に1度の運営推進会議（家族会）を実施している。その際、大型イベントを併設し地域ボランティアの方々の協力を得ている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議や近隣の民生委員の出席並びに、近隣の住民からの花の贈与を得るなど、地域の集会所で催される行事に参加している。		

番号	項　　　　　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	年１度地域開放行事として、「夏祭り」を実施している。昨年は、地域５町内の協力を得て約 400 名の参加を得た。入居者が作成した、しおりを参加者にプレゼントした。餅つき大会においては、保育園児と施設全体での交流会をしている。		
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各種書類の再チェックをはじめ、私たちが今現在サービスを提供している状態の確認を自己評価で行い、さらに外部の方に評価を得るということについて、とても有意義に考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	転倒アセスメントの実施や「危険予測トレーニング」並びに「7 領域アセスメント」などを実施し、ケアプランに導入している。また、日々のサービスの確認並びに、地域住民や家族とのかかわりを有意義に感じている。		
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	認知症サポーター養成講座を実施している。 広島市東区　２回　100 名 広島市老人大学院　１回　200 名		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	司法書士に依頼するなど、法人特定の弁護士を決めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	虐待の研修を実施し、抑制についてもあわせて研修を積み、職員間でミーティングを行っている。		

番号	項　　　　　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4　理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については、細心の注意を払い、理解を得て入居いただいている。また、時折説明と同意をし、家族や利用者がより一層の快適生活ができるよう対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	運営推進会議にて「家族と一緒に考えよう」というコーナーを設けている。また、意見箱を設置し柔軟な対応を心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月 1 回の請求書送付時、金銭出納並びに日々の状態については、ホーム長日記にて書面にて通知している。また、随時電話により家族との意見交換を実施している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	2 ヶ月に 1 回の運営推進会議などをもとに、柔軟に受け入れ、サービス内容の見直し並びに評価し柔軟かつ積極的に取り入れていくよう努力している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	職員個人面接週間に個々の意見を取り入れることや、個々の悩みを聞きだしている。また、日々の申し送りやその他、随時提案しやすい環境づくりに努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	昼間においては、9 名に対し 4 名の介護職員にてサービスを提供している。また、緊急時においても、スタッフが柔軟に対応し、搬送先病院に救急搬送添乗する工夫をしている。		

番号	項　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	人事異動に関して、移動後も他部署との交流があるため、変動はない。また、ケース担当制を導入し、担当が 3 ヶ月に 1 度代わるよう勤務を組んでいる。		
5　人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	入社時の OJT はもとより、2 ヶ月に 1 度の研修への促し並びに社外の研修に対し極力担当職員を出席させ、後日社内にて、研修発表をすることにより、職員の資質の向上を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同市内のグループホームなどとの情報交換をするなど交流を深めている。また、職員の施設見学などを相互に行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の希望休暇を優先的に受け入れ勤務シフトを作成している。また、体調不良時などにおいても柔軟に対応できるよう工夫している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員評価を実施し、書面にて本人にも通知することにより自信を持ったプロとして働けるよう職場環境の改善をしている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	アセスメントを実施している。入居後も 3 ヶ月に 1 回のアセスメントを実施し本人や家族との信頼関係の構築ができるよう努力し、コンタクトパーソンを実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	アセスメントを実施している。入居後も 3 ヶ月に 1 回のアセスメントを実施し本人や家族との信頼関係の構築ができるよう努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	窓口を決め、介護職員を中心として、医療従事者などと入居判定会議を開催し、柔軟に対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	なじみの家具を居室に設置する等の工夫をし、家族の宿泊の機会を設けている。		
2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	文化・各種行事においては、利用者の経験を生かした内容を採用している。また、干し柿作りや、干し大根をつるなど、季節に応じた生活を送っている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	昨年の施設課題として、「いかに家族とともにケアできるか」を挙げ家族とともにケアサービスを提供することができるようになった。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	家族と利用者の安定した関係作りに努める努力をしている。		

番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	家族会と大きいイベントを同時に実施することにより、円滑な関係と支援ができるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	食堂の配席の工夫をし、個々の利用者の身体機能にあわせ、利用者同士が支えあえる環境づくりに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	死亡退去家族に対し、3ヶ月に1回発行の「かぐや姫便り」を送付している。また、その家族のボランティアなどを受け入れている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	コンタクトパーソンを実施することにより、個々の利用者の把握を行い、それをもとに、ケアプランに導入している。また、家族と共有化を図っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時では、家族も知らない利用者の生活暦が有り、コンタクトパーソンを実施するうえで、貴重な情報を得ることができる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	月 1 回ケース担当会議を開催し、ホーム長・看護師・ケアマネ・ケース担当で一人ひとり検討している。また、月 1 回職員会議にて情報を共有している。		

番号	項　　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	月１回ケースカンファレンス並びにケアカンファレンスを実施し、家族の出席の依頼をかけている。 参加職種として、ホーム長・看護師・ケアマネ・介護職員・レクリエーション担当者を徴集している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	36 番と同様とし、退院時においては、入院先の医師・看護師とのカンファレンスを施行し、退院に向けてフォローしている。また、入院中もケアプランを作成し、居室の掃除や見舞いなどを策定している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌をもとに、ケース担当者がケース記録にまとめ、その記録を基に、ケアプランを他職種とともに策定している。情報の共有化については、カーデックスを利用し全スタッフがケアチェック表を作成し施行している。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当施設には、居宅介護事業所をはじめとし、デイサービスセンターや配食センター等が併設されており、各種イベントはデイサービスの休業日を利用することや、配食センターからの大量調理の提供が可能である。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	音楽大学や地域のボランティア・女性会・市消防局などの協力を得ている。		

番号	項　　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	ケアマネは、常に他の事業所と連携をとり、各種研修や情報交換に積極的に出向いて研修を積み重ねている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	家族会・運営推進会議には、すべて包括支援センターからの出席を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	1ヶ月に2回呼吸器内科医の往診をうけ、1週間に1度歯科医や歯科衛生士の往診を受けている。また、個々に応じた各科の受診援助を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	在宅医療を重視している医師に往診を依頼し、家族を含めトータル的な医療・保健・福祉のサービスを提供するよう努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師は、日々申し送りに参加し利用者の健康管理に努めている。また、気軽に職員が相談できる職場環境づくりに徹し、看護と介護を一体化してサービス提供をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	入退院に関して、家族と担当医・主治医・協力医などと連携をとり、ADL の低下の予防に努めている。また、退院時においても、カンファレンスを実施している。		

番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化した指針を示している。家族の同意書はいつでも変更することが出きるよう支援している。説明においては、事業者側と担当医・家族の三者連盟同意書を作成している。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合の指針を示し、家族にも配布している。また、ターミナルケアを現在、担当医・看護師・家族とともに実施している。	○	ターミナルケアについて、不安を感じる職員が多いため、不安除去について、話し合い・考える時間を作るよう、緊急カンファを実施している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	退所時、転居先のスタッフとカンファレンスを実施している。極力、居室環境の変化のない配置を共に心がけ、生活スタイルなどについて打ち合わせし、転居後の訪問を実施している。		

Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1　その人らしい暮らしの支援

（1）一人ひとりの尊重

番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	平成 20 年の施設課題として、「品格ある質の高い生活」の実現を掲げ、個人のプライバシー並びに誇りを深く理解するよう努め、個人情報の取扱について同意書を得ている。また、個人情報の規定を設けている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入浴にせよ、本人の着替えたい衣類を利用者と共に選び、決定している。また、食事に関し嗜好を調査し、嫌いなものの提供をしないよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	職員配置を増やし、柔軟な対応に心がけている。また、ありのままの生活を基本として、主体的な生活者として、生活経営をしている。		

番号	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
	（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月１回美容師の訪問並びに、なじみの店に行き美容師とのコミュニケーションを楽しみにしている。モーニングケア並びにイブニングケアを実施している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	例えば、まき寿司にせよ自分でまき寿司を巻き、自分で切って摂取するなど、極力個々の可動域並びにADL・IADLをその日々にて見極め、楽しく食事を摂取できるようにしている。また、デリバリーを導入することにより、より一層の楽しみの提供につながっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お正月など季節に併せて、アルコールなどを提供している。毎日晩酌をする利用者もいる。喫煙については、定められた場所での喫煙の制限はない。オヤツについては、オヤツクッキングを行い、たこ焼きや季節にあったおはぎ作りなどを実施している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンについては、量・質・性状を確かめ、毎回グラフ化している。その習慣に合わせてケアすることによって、失禁などを減少し、床暖房を設置することにより足元の冷えをなくし、日中の極力トイレ排泄を達成している。夜間においては、ポータブルを設置するなど、個々に併せてケアしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	利用者のタイミング･利用者の都合に合わせた入浴時間並びに、家族の協力を得ながらの入浴の提供を実施している。また、足浴などの提供を含め全日、入浴ができうる体制をとっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンを把握して、昼寝など居室に鍵をかけず、生活できるよう援助している。夜間に関しても、本人の入眠時間にあわせ、安定剤の服用等について、本人の希望がない限り服用しないようにしている。		

番号	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	ものづくりリハビリ・お茶いけばな・書道・歌声などの各種クラブ活動を実施している。また、季節によっては、園芸や干し柿・干し大根など、本人の得意とする事柄を見っけては、生活を楽しんでいる。また、漬物を漬けるなど、自分の役割作りと、自信へ満ちた生活活動を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	買い物へ行ったときは、必ず、本人がレジにて支払をするようにしている。また、一人ひとりの希望に応じて、買い物を提供できるよう職員体制を増やしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	広島市立保育所や高等学校の学園祭や運動会に参加するなど、近所の公園のお花見などを楽しみ、地域の方との会話も楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	敬老会など家族会やボランティアの協力によって、外食を楽しむことができる。また、お花見ドライブや、芝居を見に行くなど２ヶ月に１回の大型イベントを計画し実施している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話についての制限はなく、本人の希望する場所への電話の援助をしている。手紙のやり取りについては、季節の年賀状作りなどを行うなど、毎日夜間日記をつける人など、個々によって異なる支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は行っていない。家族の宿泊については、1泊500円にて（食事別途）提供している。		

番号	項　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	（4）安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ただ、点滴などの生命に危険がある場合を除き、抑制は実施していない。点滴時の抑制については、抑制帯などを使わず、職員がそばにいて、見守ることを実施している。固定は、すべて職員の手で行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	オートロックシステムを除き鍵は昼夜を問わずかけていない。ただ複合施設のため、夜間の出入りはセキュリティー上一箇所のみの出入りを許可している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	利用者のいる位置を確認して、すべての利用者をデイルーム（食堂）に集めることをせず、極力一人ひとりの生活スタイルを重んじるようサービス提供をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	個人の重要書類等に関しては、家族が難しい場合に限り、事務所金庫にて保管している。また、事故防止においては、誤嚥・誤飲を防ぐ措置をとっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	感染症対策としては、1 日 3 回以上のデイルームの消毒を実施している。また、居室に関しては 1 週間に 1 回以上の消毒並びにシーツの交換などを行っている。また、危険予知トレーニングを重ね実施している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え,全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	利用者の急変に備えて、マニュアルを作成し年 1 回以上の急変時研修を実施している。また、社外の研修に積極的に参加・受講するようにしている。		

番号	項　　　　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け,日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画に基づき、年2回以上の訓練を実施している。また、火災のみならず、利用者の徘徊などの緊急連絡の実施を何度も繰り返し、現段階では10分で、連絡網が回るようできている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し,抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	リスクに関しては、転倒・転落アセスメントを実施し、家族と共に検討し、利用者も含めて危険性を十分に理解した状態での施設利用を案内している。また、職員のリスク管理研修など積極的に参加している。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め,気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	利用者のみならず職員の体調の変化に早々に気づく関係作りを確立している。変化に気づいたら、直ちに連絡網に則り実施する。昼夜を問わず実施することにより、システム化を図ることができた。		
74	○服薬支援 職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬品については、ケース担当を中心に看護師と共に、服薬の支援を実施している。また、その副作用などケース担当のみではなく、全職員が確認をできるようカーデックスを共有化している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	甲状腺疾患利用者がいるため、なかなか海藻類を利用することはできないが、ミネラル分を豊富に含んだ食材を提供するよう心がけている。また、空腹時の乳製品摂取など、下剤を安易に使用せず、その他の効用を基本としている。水分摂取や運動・入浴などを含む。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	嗽を基本とし、1日3回以上の手洗い・嗽を施行している。また、毎食後の口腔内のチェックにあわせ、1週間に1回の歯科医の往診並びに6ヶ月に1度の無料歯科検診を実施している。		

番号	項　　　　　　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分摂取については、１日間をトータルにケアできるよう、排泄記録と同様にインとアウトを調整し個々の利用者の疾患にあわせた、水分摂取の促しをしている。水分摂取量低下の利用者については、プリンやゼリー、アイスクリームなど、適宜柔軟に対応できる体制を組みサービスに当たっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	マニュアルを作成し、年２回以上の研修を実施し、施設外研修に積極的に参加している。また、一日 3 回以上のデイルームの消毒並びに、冷蔵庫の消毒など徹底した、衛生管理を心がけ家庭的雰囲気などを壊さない状態で提供するようサービスを提供している。また、完全ディスポ制を取り入れている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品衛生責任者を設置し、食の安全について理解を進めているところである。また、地域の商店や酒屋などと協力を得て、食品材料は、毎日の配達並びにその日の、調理及び、調理後 2 時間以内摂取を徹底している。食器は、使用時毎、器具類に関しては、一日 1 回以上の消毒を実施している。		
	２　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関口については、複合型施設のためなかなか家庭的とは、いいがたいが、季節の花々などを利用者と共に植えている。現在は、冬から春にかけて楽しめる花々やハーブを植えている。この玄関先の花を摘んでは、テーブルに飾るなどの提供をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の雰囲気を出さず、極力家庭的な雰囲気を保持した状態で、利用者が戸惑わないよう工夫をしている。採光については、自然の太陽の光を取り入れるよう採光窓を設置し、トイレなどの表示については、個々の分かりよい言葉を利用している。		

番号	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	季節によっては、コタツの利用や、ソファーにて気の合った同士で会話を楽しむことができる。また、コタツでのごろ寝やソファーでのごろねも、できる環境に努めている。パーテーションを利用することで、空間を区切ることにより、グループ化を図ることもできる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の利用しやすい居室環境に努めている。また、家族の希望も踏まえ、その利用者を中心に多くの方の意見を取り入れて、生活者として主体的に過ごせる居室の配慮を柔軟に行っている。あわせて、重度化していくにつれ、居室のレインアウトの改善などを、カンファレンスを基に実施していき、プランニングに導入している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度については、床暖房を利用しトータル的に調節をしている。また、換気についても適宜行い湿度の保持並びに確保を重点的に行い、感染症の予防に努めている。		
	（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下にビニールテープを貼り、利用者個々が安定した歩行が可能となるよう日々リハビリを実施している。また、冬場においては、トイレに暖房を設置し、温度変化に気を配っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	個々に応じた分かる喜びをケアしている。例えば、トイレの表示並びに、計算ドリル・花の名前、料理の作り方や、季節の飾り物など、生活上の分かることと、趣味などでの分かることの両方を考えサービス提供のなかに組み込むことを 工夫し実施している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	ベランダには、季節の果物や、野菜を植え、花々を利用者と植えている。また、ねぎや三つ葉などについては、水耕栽培を実施したり、利用者が生けた木物については、挿し木をしたりと楽しんでいる。玄関先は、季節の花を植え、お客様のお茶の盆花にして楽しんでいる。		

番号	項　　　　　　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）